

保育者養成のための授業の在り方についての 実践報告

～保育園での実践を通して～

稲生 弘志

キーワード：ビー玉コロコロ、造形遊び、教材研究

1 はじめに

私は、保育士、幼稚園教諭養成を主な目的とする本学の学生の学びが保育の現場で生かされるように指導してきたが、実習を終えた学生から話を聞くと、授業での学びが生かされていないように感じた。例えば、実習を終えた学生から、工作の時間に幼児がこまを回したときこまが破けてしまった、時間が足りず結局十分な作品に仕上がることができなかった、作品は出来たが幼児の盛り上がりは今ひとつだった、という声が聞かれた。教材について十分な研究が足りなかった、指導案を練り上げなかった、友達との関わり合いの場を設定していなかった等、様々な理由が挙げられる。そこで、授業で教材研究を行い指導案を書き上げた上で、学生が実際に保育園に出向いて授業を行い、成果や課題を大学授業にフィードバックし、さらに保育現場で実践力の高い授業を行っていきたいと考えた。教材はビー玉を使った造形遊びを取り上げた。この素材を取り上げた理由として、年齢や発達段階等に関わらずどの子も表現しやすいからである。また、手先の器用さや造形の興味と関係なく、誰でも取り組める利点がある。この研究を通して保育者養成のための授業の在り方について考え、よりよい授業を探っていきたい。

本報告の目的は、教材の内容や指導のねらいを明確にした上で、授業での学びが保育現場で生かされるようにすることである。

2 ビー玉を使った造形の特徴

(1) 造形遊びとは

ビー玉を使ってコロコロと転がす造形（※以後は「ビー玉コロコロ」とする）は、幼児が簡単にできる造形遊び¹である。幼稚園や保育園では重要な学習であると位置づけられているとともに、造形遊びは日常的に行われている。小学校での造形遊びは教科学習の一つとして行われているのに対し、幼稚園、保育園での造形遊びは、「表現」造形遊びとして行われる。そして、他の領域とも関連し、生活や遊びを通した総合的な保育として行われている。

(2) 造形遊びが育むもの

幼児は遊びを通して身体感覚を豊かにし、自己の世界を広げ、発達していく存在である。中田は著述の中で²、造形遊びを大きく「a 全身的な造形活動、b 構成遊び的な造形活動、c ごっこ遊び的な造形活動」の三つに分けている。そしてa 全身的な造形活動では、「例えば、砂や水の感触を楽しむようなaの活動は、材料の感触を楽しんだり、ときには穴をひたすら掘ったりという行為そのものを楽しむ活動」としており「結果、心の開放につながるよさがある」と述べている。ビー玉を使った造形遊びは、このaに当てはまると考えられる。絵の具をつけたビー玉を入れ、箱の中をコロコロと転がして遊ぶ行為は、幼児にとって、楽しく夢中になる適した教材と考える。

¹中田稔著「3章-1 造形遊びの授業」P42によると、造形遊びの特徴として、①材料からの発想を基本とする②体全体の感覚を使って活動することを大事にする③結果よりも活動の過程を重視する、を挙げている。小学校では、1977年にはじめて1、2年生に登場し、1988年の改訂により全学年で行う活動として位置づけられた。竹井史編著『学級担任の図工授業完べきガイド』明治図書、2012年

²中田稔著「1-3 造形遊びが育むもの」P17、磯部錦司編『造形表現・図画工作』建帛社、2014年

(3) 素材としてのビー玉

幼児は、身の回りにある様々な素材に興味を持ち、その感触を味わい、並べたり積んだり、いろいろな物をたたいて音の変化を楽しんだり、転がしたりと様々に扱って楽しむ。さらに、自分なりの表現として工夫を加えて遊ぶことを楽しんでいく。この点で、ビー玉は最適な形をしている身近な素材である。また、岩崎は著述の中で³、造形遊びの際、「保育者側は素材とかかわる遊びの過程の中で、アイデアやイメージが生まれ、表現が工夫され、結果としての作品を気にせず適応できる柔軟な造形性を目指す」ことを説いている。「遊びそのものが表現であり、時にはそれが造形材料や用具と結び付いて結果として作品になる」と想定しておく必要があるとも述べている。ビー玉を扱う場合、ビー玉の素材の良さを念頭に授業を行うことが必要である。また、ビー玉の素材の良さを生かすために、保育者は幼児が様々な素材や用具を利用して書いたり作ったりことを工夫して楽しめるよう、環境を整え準備することが求められる。

(4) 多様な楽しみ方ができる教材

転がった軌跡に絵の具がついて線の模様が出来る。色を変えたり、ビー玉の数を増やしたりと、いろいろな楽しみ方が工夫できる。こういった点からもビー玉を使った造形遊びは、魅力的である。

3 教材研究と指導法について

(1) 教材研究の指針

保育園での実践の前に、筆者担当の「保育内容の指導法（造形）」では、概ね、以下の5つの流れで授業を進めた。

³ 岩崎由紀夫著「素材への挑戦」「素材との出会いが孕むもの」P34、35、花篤實監修『幼児造形教育の基礎知識』建帛社、1999年

- ・ビー玉コロコロの作品づくり。
- ・指導ポイントをグループ内で共有。
- ・幼児を想定した指導案（図1、2）づくり。指導対象は年長、在籍クラス人数を8名～10名とした。
- ・学生3～4人のグループ（1人が保育者役、他の人が幼児役）での模擬保育。
- ・模擬保育の振り返り。

14グループの内、保育園での実践にたいへん参考になる2つのグループを例として挙げる。

（2）グループAの例

模擬保育を行う際、グループAでは指導案を元に、指導ポイントとして以下のことを共有した。

- ①季節は秋なので、秋を彩る葉っぱを作製して、季節への関心を高め、季節の変化を味わう。
- ②保育者が描いた木に葉っぱを貼る際、お互いの作品を見せ合った上で、話し合いで貼る場所を決めることで、協調性を育てる。
- ③「まっかな秋」をみんなで歌い、完成を喜び合う。
友達と一緒に作った成就感を味わう。

模擬保育では、保育者役の学生は手に絵の具が付いたときのための雑巾、ビー玉、ビー玉を転がす箱、保育者役が作製した3種類の葉っぱ、樹木が描かれた葉っぱを貼る台紙等、十分な準備をして臨んだ。授業の導入では、保育者役が手本を見せながら製作意欲を高めていた。授業の展開では、幼児役の学生は箱の中に作っておいた葉っぱを敷き、赤、黄、青の三原色を使って、ビー玉



写真1

を転がして着色した(写真1)。保育者役は、「ゆっくりとビー玉を転がそうね。」「葉っぱが紅葉しだしてきたよ。」など、幼児役に適切な声かけをしたり賞賛したりしていた。着色したばかりの葉っぱで濡れているが、保育者役が葉っぱを箱から外して台紙に貼る活動へと移った。保育者役は「どこに貼ろうかな。」「木に貼ると紅葉が美しいね。」と、幼児役に貼りたい場所を聞き出しながら学習を進めていた。授業の終末では、「まっかな秋」をみんなで歌い、完成を喜んだ(写真2)。



写真2

保育内容の指導演(進行) 授業録保育用		学習者	指導者	経過	学習者
No.15		/	11/6	/	/
学籍番号[]	学生名[]	活動目標(指導要領)			
年 月 日 ()	指導者氏名()	担任保育者氏名()	学年	性別	年齢
活動のねらい	中心となる活動				
活動のねらい	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。				
時間	活動時間(準備)	学習者各々の活動	指導者・実習生の補助・留意点		
0	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。		
5	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。		
10	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。		
15	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。		
20	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。		
25	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。		
30	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。		
徳島県立短期大学					

No.15		学籍番号[]	学生名[]
時間	活動時間(準備)	学習者各々の活動	指導者・実習生の補助・留意点
15	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。
20	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。
25	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。
30	10分	① 葉っぱの形を紙に写し、黒い線を描く。 ② 葉っぱの色を塗る。 ③ 葉っぱを木に貼る。	① 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ② 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。 ③ 葉っぱの色を塗る時に、黒い線が塗られてしまわないように注意する。
徳島県立短期大学			

図1 保育者役の指導案(グループA)

以下は、模擬保育を終えての振り返りである。

- ・幼児役に分かりやすく教えることを意識して行うことができた。(保育者役)
- ・ビー玉を転がして葉っぱを着彩することはうまくいった。(保育者役)
- ・季節が秋ということもあり、秋の良さを十分に味わうことができた。(幼児役)
- ・大きな木に貼るという発想が良かった。幼児役の子達と会話しながら葉っぱを貼った。(幼児役)

- ・事前に葉っぱを作っていたので、スムーズに葉っぱを着彩できた。(幼児役)
- ・葉っぱが早く仕上がったので、幼児役にアドリブではさみを使ってハート形を切ってもらった。少しあせった。予想される幼児の活動について、指導案をもっと練り上げたほうがよかった。(保育者役)

上記の指導ポイント①について、振り返りでもあるように季節を感じる教材がとても大切であると考えます。指導ポイント②について、共同で一つの作品を作り上げることにより、コミュニケーションが生まれ、楽しく製作できることが分かった。指導ポイント③について、作品完成の成就感を味わうのに、歌を歌うことは有効であると考えます。さらに、保育者役の子達が記しているように、予想される幼児の活動をしっかりと想定した指導案を作り上げることが大切さであると考えます。このことを保育園での授業で生かすようにした。

(3) グループBの例

模擬保育を行う際、グループBでは指導案を元に、指導ポイントとして以下のことを共有した。

- ①ビー玉を転がして着彩することを楽しむ。
- ②個々の作品作りで終わらせるのではなく、友達同士が関わって作る活動

も大切にする。そのため、風船を大きな青画用紙に貼る活動を取り入れる。保育者は、風船の多少の向きや位置に触れない。お互いに認め合える共同作品にする。

- ③風船をモールで縛ったり型紙に沿って風船を切ったりすることで、手先の巧緻性を高める。

模擬保育では、保育者役の学生が幼児役の学生2人に新聞を敷いたり絵の具を出したりするように指示しながら、一緒に準備を行っていた。また、「〇〇さん、とても姿勢がいいね。」「〇〇ちゃん、お話していたら、楽しいお勉強が進められないよ。」と、授業に関心が向くような言葉掛けを幼児役に積極的に行っていた。授業の導入では、ビー玉を転がしてしゃぼん玉を着彩するやり方を見せて造形の楽しさを伝え、幼児役の「やってみたい」という意識を高めていた。授業の展開では、保育者役は3色で着彩するように促し、鮮やかな色彩やかたちに「とてもきれいな色になったね。」



写真3

「この線がすてきだね。」と幼児役の造形を賞賛していた。そして、保育者役が風船の型紙に線を引き、それを幼児役がはさみで切った。幼児にとっては線をもっと太く書いたほうがよかったかもしれない。さらに、好きな色のモールを選んでもらい、風船に巻き付けた。授業の終末では、でんぷんのりの使い方を指導しながら、幼児役同士でどこに貼りたいか話し合う場を作っていたことが印象的だった(写真3)。「風船の歌」を幼児役の二人と一緒に歌って、出来上がりを楽しんだ(写真4)。

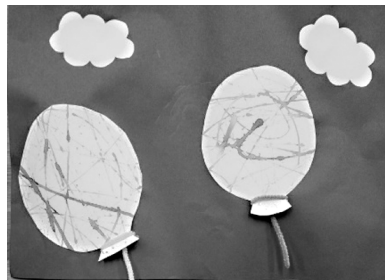


写真4

保育内容の構成法(選択) 模範保育用			
DATE	月	日	日
1	10	6	1
学齢番号 [] 学生名 []			
活動計画(指導案)			
年月日	活動時間	活動場所	実施者
10/6	10:00-11:00	保育室	先生
活動のねらい	① 紙の「風船」をつくり、折り紙で飾り、色紙で貼る。 ② 色紙の「風船」を、折り紙で飾る。		
時間	活動構成(活動)	予想される子どもの活動	保育者・実習生の役割・留意点
10:00	1. 挨拶 2. 活動のねらいを伝える	・挨拶をする ・活動のねらいを聞き、興味を示す	・挨拶を促す ・活動のねらいをわかりやすく伝える
10:10	3. 折り紙の「風船」をつくる	・折り紙を切る ・折り紙を貼る	・折り紙の切り方を教える ・折り紙の貼る方を教える
10:20	4. 色紙の「風船」を貼る	・色紙を切る ・色紙を貼る	・色紙の切り方を教える ・色紙の貼る方を教える
10:30	5. 完成した「風船」を飾る	・色紙の「風船」を飾る ・折り紙の「風船」を飾る	・色紙の「風船」の飾り方を教える ・折り紙の「風船」の飾り方を教える
10:40	6. 発表する	・自分の「風船」を発表する	・発表を促す ・発表を褒める
10:50	7. 片付け	・片付けをする	・片付けを促す
11:00	8. 挨拶	・挨拶をする	・挨拶を促す

No. _____			
学齢番号 [] 学生名 []			
活動計画(指導案)			
時間	活動構成(活動)	予想される子どもの活動	保育者・実習生の役割・留意点
10:00	1. 挨拶 2. 活動のねらいを伝える	・挨拶をする ・活動のねらいを聞き、興味を示す	・挨拶を促す ・活動のねらいをわかりやすく伝える
10:10	3. 折り紙の「風船」をつくる	・折り紙を切る ・折り紙を貼る	・折り紙の切り方を教える ・折り紙の貼る方を教える
10:20	4. 色紙の「風船」を貼る	・色紙を切る ・色紙を貼る	・色紙の切り方を教える ・色紙の貼る方を教える
10:30	5. 完成した「風船」を飾る	・色紙の「風船」を飾る ・折り紙の「風船」を飾る	・色紙の「風船」の飾り方を教える ・折り紙の「風船」の飾り方を教える
10:40	6. 発表する	・自分の「風船」を発表する	・発表を促す ・発表を褒める
10:50	7. 片付け	・片付けをする	・片付けを促す
11:00	8. 挨拶	・挨拶をする	・挨拶を促す

図2 保育者役の指導案(グループB)

以下は、模擬保育を終えての振り返りである。

- ・ビー玉を転がすことが楽しかった。(幼児役)
- ・ふざけたりあまえてむずかかったりする場合は、どのような声かけや支援をすればよいのか難しい。特に、終末での共同製作のとき、このようなことが起きるだろう。(保育者役)
- ・幼児役の友達から質問されて、私が気付かされたことが多かった。(保育者役)
- ・のりを塗って紙を貼る、はさみを使って風船の形を切る、モールを曲げて風船に縛る、等の作業を取り入れているところが良いと思った。(幼児役)
- ・手を拭くタオルや絵の具を乾かすための団扇を用意するなど、準備されていたので、製作がスムーズだった。(幼児役)

上記の指導ポイント①について、振り返りでもあるように、友達同士で関わり合いながら製作することの難しさについての記述がある。保育園での模

擬保育でも、このようなケースを想定したうえで、授業を行う必要がある。指導ポイント②では、年長5歳児の発達段階の指導に留意しながら、積極的に取り入れて身に付けたい技能である。

(4) グループA、B以外の例

- ・はさみを使って紙を切る技術は年齢や個人で差があり、教材を研究して事前準備しなくてはならない。丸型は4歳児には適当だが、5歳児にとっては少し簡単か。星型は技術が要るので、5歳児にはよいかと思う。(保育者)
- ・今回は、季節を取り入れた造形をするようにしたい。(保育者)
- ・はさみで切るときの線をマジックで書いた。幼児は切りやすかったのではないか。(保育者)
- ・紙の上で色が混ざって緑色になったり紫色になったりする様子を見ることができた。色の変化を楽しむことをうまく取り入れるとよい。(幼児役)
- ・(できた作品を)輪ゴムで結ぶときに、保育者役の友達が手伝ってくれた。そっと手助けすると、幼児もうれしいと思う。(幼児役)
- ・ビー玉に付ける絵の具が十色あったので、色を自由に選ぶことができてよかった。(幼児役)
- ・(ビー玉コロコロで着色した画用紙を)ぶんぶんコマにした。アイデアはとても良かったが、画用紙ではなく厚紙のほうがよかったかも。(幼児役)
- ・ビー玉をコロコロする楽しさを味わうことができた。また、紙を折る作業を取り入れていて、手指の発達の個人差を把握できて、個別指導に役立つと思った。(幼児役)

以下は、保育園での実践に生かすため、グループA、B以外での主な振り返りと作品例(図3)を挙げる。

⁴槇英子著「幼児前期までに発達に配慮した援助」P75-82、手先や道具を使って楽しめるものとしてはさみやのりを挙げている。『保育をひらく造形表現』萌文書林、2008年

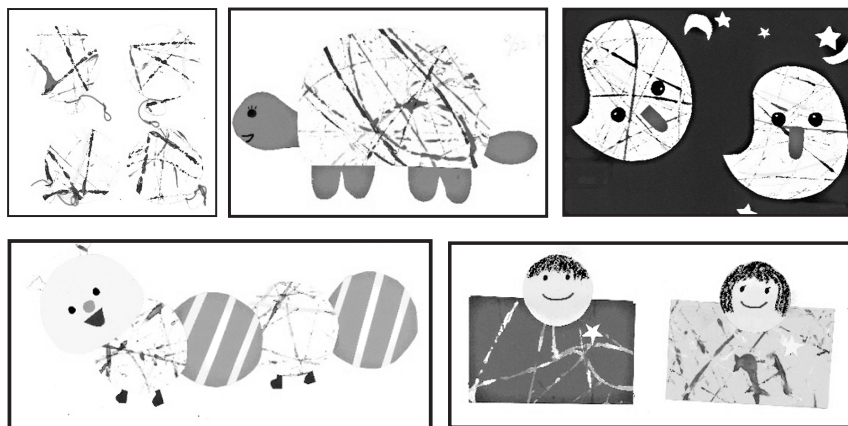


図3 グループA、B以外の作品例

3 保育園での実践準備

「保育内容の指導法（造形）」で教材研究と指導法について学びを深めた後、筆者担当の1年課題探求ゼミ10名が辰野町東部保育園での実践を行うため、授業準備の話合いをもった。これまでの教材研究や指導法を踏まえて、幼児への指導のねらいを以下の4点とした。

- (ア)ビー玉が思わぬ方向に転がることを楽しむ。
- (イ)秋らしい教材を取り入れ、季節を味わう。
- (ウ)共同で作る場をつくり、話し合ったり完成をみんなで喜んだりして、協調性を育てる。
- (エ)はさみで紙を切ったりのりを塗って貼ったりする作業を取り入れ、手指の巧緻性を育てる。

筆者が学生の考えを取りまとめて指導案を作製した。(図4)

5 保育園での授業実践（保育園年長組15名を対象にした授業）

令和3年11月2日、辰野町東部保育園にて授業を行った。事前準備では、学生がビー玉を転がす箱、模造紙に貼るしゃぼん玉の大小の円形・雲・家・木、しゃぼん玉の歌詞カードを作った。当日の役割分担では、授業を進行する、授業の大まかな流れを説明する、ピアノを伴奏する、新聞紙をテーブルに敷く、パレットに絵の具を入れる、などを決めておいた。また、15人の幼児は2人で一脚のテーブルで製作するので、学生1人で幼児2人を担当した。



写真5

(1) 幼児への学習の流れの説明

授業では、学生は最初に箱に水彩絵の具を付けたビー玉を転がしてしゃぼん玉に着彩することを説明した。次に、学生が用意しておいた雲を切ったり、家や木を模造紙に貼ったりした後、しゃぼん玉も乾いたら模造紙に貼ることを説明した。最後に、みんなで「しゃぼん玉」の歌を歌って完成を喜ぼうと投げかけた。だが、学生の事後アンケートでも「事前に通し練習をしておけば、説明ももっとスムーズにできたと思う。」とあるように、説明が間延びしてしまった。担任の保育士による事後アンケートにも「緊張していたりマスクをしていて声が届かなかったりしたところもあったと思いますが、全体に説明するときにはもう少し元気にできるとよかったです。」とあり、幼児への学習の流れの説明はうまくいかなかったと言わざるを得ない。

(2) 幼児への声かけ、支援

幼児がビー玉を転がすときに「ゆっくり転がそう。」と学生が声かけした

り、ビー玉を転がすことに躊躇している様子を見て「こんなふうにするよ。」と手本を見せたりしていた。幼児の意欲を高めようと上手に貼ったり切ったりするところを誉めていた。また、手に付いた絵の具を拭くときにさっと手拭きタオルを差し出すなど、優しく幼児に接する姿がたくさん見られた。椅子から立ってはさみを使う幼児へは「座ってはさみを使おうね。」と適切な指導も行うことができた。



写真6

さらに、ビー玉を転がしているときに「どんな色が好き？」と話しかけてお互いの距離を縮めたり、模造紙にしゃぼん玉を貼ったときに「お空にしゃぼん玉が浮かんでいるね。」と作品の良さを後押ししたりする声かけもあった（写真6）。声かけによって、幼児とのコミュニケーションをとり、緊張感をほぐしてに安心感を与えているようだった。

(3) ビー玉転がしを楽しむ幼児

幼児たちはビー玉を転がすこと自体をとっても楽しんでいた（写真7）。また、大小2種類のビー玉を用意することで、ビー玉転がしの楽しさが増したようだった。「なんだかゲームみたい。」と遊び感覚で描いていた。ビー玉に水彩絵の具を付け、コロコロ転がして丸く切った画用紙（しゃぼん玉）に着彩した。赤、黄、緑の三色を使った。「どんな絵になるのかな？」と幼児も不思議に感じながら製作していた。偶然できる色や線に魅了されながら、夢中になって造形に取り組む姿が多く見られた。



写真7

また、混色について話をしながら楽しんで製作する幼児もいた。

A児：「ぼくは緑が好き。緑！緑！」

T 1：「きれいな緑だね。Aちゃんは緑が好きなんだね。素敵なしゃぼん玉にしようね。」

T 1がパレットにある赤と黄色の混ざったところを見付けた。

T 1：「赤と黄色が混ざってオレンジ色になっているね。」

A児：「へえ、違った色になるんだね。」

B児：「ぼく、赤と青を混ぜたら、紫色になることを知っているよ。」

※A児、B児：幼児、T 1：学生

別のテーブルでも「オレンジ色になったよ。」「紫色になったよ。」と、色について話題にしていた。このように、混色について話し合ったことで、色への興味関心が深まった。

(4) 発達段階に配慮した授業

知的な面でも情緒的な面でも成長してくると、自分を取り巻く周囲との関係や状況を知るようになっていく。そして、人とはこんなもの、家とはこんなもの、自動車とはこんなもの、というように一つ一つの事物について確かな認識を持ち、それぞれの概念も形成されていく。画面には上下左右がで



写真 8

き、大小のバランスや物と物との関係づけができてくる。色についても物の固有色を使う傾向が出てくる。発達段階における図式前期の幼児の絵の大きな特徴として「ベースライン」がある。これは、地面との境界に一本の線が引かれ、家、木、花、人物などがこのベースラインの上に並ぶ。いわゆる写実画のように一視点から見えてい

るものを描いているのではなく、「自分の下には地面がある」「自分の上には空がある」「自分のそばには木がある」「家、木、花も自分と同じように地面の上にある」というように、客観的な視点ではなく自分を中心に、物との関係を理解し描いている時期である。この観点から、年長児の幼児の発達段階である空間認識を理解した上で本授業を仕組んだことで、幼児たちはどこに家や木、雲やしゃぼん玉を貼ればいいのか、楽しみながら製作することができた。(写真8)

(5) 授業の終末（幼児の主体性をいかせなかった指導）

授業の終末では、模造紙にしゃぼん玉や木、家や雲を貼っていたとき、一人の幼児が「ここに橋を描きたいな。」と思わずつぶやいた。指導案では幼児が橋を描く計画はなかった。学生の事後アンケートにもあるように「模造紙に学生が既に作った家や木を模造紙に貼っていく際、自分の希望の木や家がなく、作ってみたい幼児がいた。作りたい幼児への配慮も必要だった。」とあった。学生は「また今度のときに描こうね。」とその幼児の気持ちに寄り添って言葉を掛けていた(写真9)。幼稚園教育要領・表現「内容の取り扱い(2)」に「幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむようにすること。」とある。幼児が生活の中で様々な物に出会うと、「これなんだろう」「おもしろそう」「不思議だな」と、その子なりの心の動きが見られる。その心の動きが、つぶやきであったり身体の動きであったり絵や製作であったりする。このように、自分の心の中にある



写真9

ものを素直に自分らしく表に表すことが表現であると捉える。幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多く、日々の生活の中で感じたり考えたりしたことをそのまま素直に表現する。そこで、教師はほんの些細なことと思えるものでも、幼児らしい表現と受止め共感していくことが大切であると考え

(6) 作品の完成を喜んだ「しゃぼん玉」の歌

学生が伴奏し、みんなでしゃぼん玉の歌を歌い、完成を喜んだ。この歌は幼児にとって歌ったことのある唱歌で、元気よく歌うことができた（写真10）。歌い終わると、自然と拍手が起こった。



写真10

5 授業実践での成果と課題

授業実践から得られた成果として、以下を挙げることができる。

- ・ビー玉を転がして紙に着彩する造形は、幼児には有効な教材であった。ビー玉が画用紙の上に思わぬ方向に転がることで、画用紙に着彩されることを楽しむことができた。自分の意図しない線が描かれる偶然性や不思議さに心を躍らせ、驚きの気持ちをもちながら飽きずに造形活動する姿が多く見られた。また、ビー玉に着彩する色を変えることで様々な色彩が重なり、さながら現代アートのように造形遊びの面白さを味わうことができた。幼児が「赤と黄色が混ざってオレンジ色になっているね。」と思わず言ったように、色にたいへん興味をもった。
- ・共同で作品を作る場を設定したことにより、友達とコミュニケーションを取りながら活動に取り組む姿が見られた。また、歌を歌った効果もあり、幼児たち同士で作品完成の成就感を味わうことができ、次もやってみたい

という意欲をもつことができた。

- ・授業の事前準備が周到にされていたので、どの幼児も楽しく造形を楽しむことができた。教材研究、指導案の立案、事前の打ち合わせ等により、学生が主体的に準備をすることができた。
- ・野原に家や木、青空にしゃぼん玉や雲を描くことは、5歳の幼児の発達段階として適切であったと思われる。

また、課題として以下を挙げることができる。

- ・季節を味わう授業とは言えなかった。話合いを行ったとき指導のねらいを「(イ) 秋らしい教材を取り入れ、季節を味わう」としていた。例えば、ビー玉ではなく、どんぐりを使ったらどうだのだろうか。教材研究を行なった上で、授業の中で季節感を感じる工夫が必要だった。
- ・雲の形を切ったり、自分が作ったしゃぼん玉にのりを塗って付けたりする作業は、幼児にとって簡単であり、手指の巧緻性を育てるには十分ではなかった。もう少し実態に合わせて、切ったり貼ったりする作業を増やしたほうがよかった。
- ・一人の幼児が「ここに橋を描きたいな。」と思わずつぶやいたとき、幼児に寄り添い、一緒になって考えることができる授業を行うようにした方がよかった。幼児は作っている最中にも、別の考えが湧いてくることが多い。保育者は受容し、幼児が主体的に取組める支援をすることが大切だ。

以上のように、成果と課題が明らかになり、今後のよりよい授業づくりに生かせるものと考ええる。

6 おわりに

この実践を通して、授業での一つ一つの学びが保育園での実践につながっていくと分かった。例えば、扱う教材が幼児の発達段階や個人差に対応でき

ていなければならないし、それが魅力的かどうかも大切で、形状や材質、大きさ等も踏まえて、幼児が興味関心をもつようなものでなければいけないと考える。また、その教材を生かすための指導方法を考える必要がある。授業の中で実際に学生が描いたり作ったりするなどの教材を研究することで、想定される幼児の姿を思い描くことができる。

保育園での模擬保育では、「ここに橋を描きたいな。」と呟いた幼児に対応できなかった。橋を描きたいのはなぜなのかを聞いてあげたり、いっしょになって橋を描こうとってあげたりするなど、幼児の思いに寄り添えることが大切であった。改めて、造形は幼児の個性を引き出せる魅力ある授業である。

<付記>

本稿には辰野町東部保育園の園児のみなさんの発言や写真、本学学生のアンケートコメントや写真を掲載しております。引用に際し承諾させていただいた東部保育園の園児のみなさん、本学学生には改めて感謝申し上げます。

引用・参考文献

- ・宮脇 理監修 他3名編集『造形遊びの展開』建帛社、1996年
- ・花篤 實監修 他2名編集『幼児造形教育の基礎知識』建帛社、1999年
- ・磯部 錦司編著 他10名共著『造形表現・図画工作』建帛社、2014年
- ・文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、幼保連携型認定こども園教育・保育要領『内閣府・文部科学省・厚生労働省』いずれも平成29年告示
- ・楨 英子著『保育をひらく造形表現』萌文書院、2008年
- ・渡辺 一洋著『幼児の造形表現』ななみ書房、2015年
- ・齋藤 正人監修・編著 他5名著『楽しい造形表現』圭文社、2018年
- ・辻 政博著『子どもの絵の発達過程』日本文教出版、2003年
- ・竹井史編著『学級担任の図工授業完べきガイド』明治図書、2012年